

《事例紹介》

年齢96歳、要介護5の女性。ほぼ意思疎通が図ることができない状態。

ケアマネより、食事摂取・入浴・交流などによる刺激を目的とする利用相談あり、体験利用を経て、30年1月より隔週2回でデイサービス博多の森利用開始となる。

デイサービス利用以外では、ショートステイを利用しながら在宅生活を送られている。

利用当初の身体状態は掴まり立ちは可能、食事は一部介助、健康状態は安定されていると評価するが、食事摂取量、水分量が平均より少ない事に気づき、ケアマネと問題視する。

ご家族からの聞き取りによる摂取状況は「問題ありません。食べられる物を食べて、飲んでいきます」とのことであった。

6月頃より水分・食事の吐き出しがあり、食事摂取量は2割・水分摂取量は300ccを満たない日が続き全てに介助が必要な状態となる。

体重は、31.3kgから27.7kgと-3.6kg減少。栄養状態の悪化も伴ってか左臀部に褥瘡ができる。この様な状態を踏まえて、家族・ケアマネ・デイサービス生活相談員が集まり協議し、情報を共有・対応策を検討する。ご家族は「私のせいで母は…」と号泣されていた。

【決定事項】

- デイサービスの利用回数を増やし、健康管理や食事摂取状態を把握する。
 - 栄養補助食品等をデイサービスに持参し摂取不良時に提供する。
 - 医療面での管理が出来るよう訪問診療、訪問看護サービスを導入する。
 - ご家族に対して、食事介助方法等の指導を行う。
- ※会議後受診され、水分、食事摂取量が足りていないと診断を受けられた。

【デイサービスでの援助内容】

- 食事5割以上・水分500～700cc以上を目標にする。
- 食事形態を、食べやすい形態へ変更。
- 小分けにし、こまめに水分を提供する。